

… 雨でも休まず；第78、79、80、81回 …

「若柳嵐山の森・小原本陣の森」から

- ・活動1：若柳嵐山の森：9月7日(第一土曜日)、参加費300円、弁当持参
 - ・森林整備に注力する。また、活動内容の充実について相談する。
 - ・活動2：小原本陣の森：9月8日(第二土曜日) 参加費300円、弁当持参
 - ・9時15分駅前集合。車分乗で行く
 - * 第一・第二が連続になるので、その積もりで泊まりを楽しく工夫。
 - ・活動3：若柳嵐山の森：9月15日(第三土曜日) 参加費500円、飯のみ持参
 - ・森林作業保険+通信費+お昼は飯だけ持参の事
 - ・活動3、のみ申込必要：TEL&FAX 03-3411-1636(石村)
 - * 今月は「栗拾い大会」…家族連れでおいで。
 - ・活動4：技能講習会：9月23日：秋分の日、於：若柳・嵐山の森
-
- ・集合：相模湖駅前9時15分。8時46分、9時02分のJR高尾発に乗るべし。
 - ・服装：汚れても良い格好・着替え 足元が滑らない履物
 - ・持参品：軍手、自分の食器、万一の怪我に備えて…保険証写し
そして、作業を楽しむ“ゆとり”と怪我をしない「心構え」

NPO緑のダム北相模

8月の定例活動日は、作業を少し早めに終わって全員参加の報告会を行った。理事をお願いした地元の方々を仲間たちに紹介した。話題が弾んで時間オーバーしたが、説明会終了後は、館内の食堂で懇談会をやった。ここでも、森仲間たちの人柄のお陰で和気あいあいの懇談となり終了が名残り惜しかった。



NPO報告会に沢山参加してくれた。

・ 活動報告 1 : 若柳嵐山の森 (7月7日、第1日)

… 報告 : 富沢裕作

- サガミ湖畔“若柳・嵐山の森”は、濃緑に覆われ今夏、更に過酷・猛暑の真っ盛り…。そんな日に麗しの乙女が一人、この森に舞い降りた。その名は、塩崎まゆ、17歳。
 - 「むさ苦しい野郎ども」しか集らない作業に注力の臨時活動日にである。初参加のこの乙女は、数日前に参加を申し入れて、定刻前に駅前に来ていたが、相も変わらぬ“チャランポラン”の出迎えの野郎ども、折角、作った会旗を持たず“ボケー”としているものだから、まゆさん、人伝てにバスに乗り桂橋まで(びんがらびん)行って、尋ね尋ねてやっとこの森にたどり着いた由。全くドジなおジンたちだ。
 - この日の作業は、前回残した植林下草刈り地区の仕上げ、早々に“猛然と藪に突っ込む”。彼の乙女、何んたる事をサンタ・ルチャ、少しも怯まず「むさい野郎ども」に混じって敢然と藪に取り付いているのでありました。猛暑・汗まみれになって大鎌で下草刈るその可憐な姿には、野郎ども、爽やかな清々しさを感じたのであります。植林下刈り地区の行き止まりは、広葉樹の猛烈藪の「除伐地区」。例の“いずれ、やっつけて御覧にいます区域”。午後は、借用鎌の「鎌研ぎ習熟研修」とか…。 “寧ろ／＼ 鹿園大棟梁”に乗せられてまたしても、セッセと「鎌研ぎ」をさせられたが…してやられた感じ。鎌研ぎ研修後のミーティングで鹿園のご宣託は、「若手参加者の定着を何かとかしろ」と強要。
 - 活動終了時、陽も少し陰ってフト…、気付くと「苔むす山径・木かげに刈り残した“姥百合”の株が鶯(ひわ)色の花片を涼しげに」そよがせていた。
- * 今回の“大反省点” ; 初参加者に心配かけるな。そして、全員で歓迎しろ。お出迎えには、必ず「会旗」を掲げろ。また、現地連絡のための「携帯」持参を忘れるな。

・ 活動報告 2 : 小原本陣の森 (8月11日、第2日)

報告 鈴木敏美

- ・ 猛暑、参加は10人。永井さんのアドバイスを受けて拠点・基地作り。場所は、二つの沢の合流点左側のかかなり広場。流れ落ちる沢水の音も心地よく地形に恵まれた場所だ。ここにベンチを置こう、山小屋も建てようと思しみな夢も広がる。これらの材料となるのは、来月から伐採予定の間伐材。頑張らしましょう。側に清冽な谷川の流れているのが嬉しい。タオルを浸して首筋を拭けば疲れも和らぐ。午後は、蔓の絡んだ欠頂木を慎重に数本伐採。今回も何事もなく無事故。仲間に感謝。
- ・ 養蜂を始めた西君と会運営に熱心な石村さんは、養蜂拠点を探しに2万5千分の1の地図を片手に相模湖町中を走り回って来た由。何んでも、NPO役員尾形さんの裏庭に素晴らしい梅林があって、そこは蜂たちの飛距離圏内だから来春は、蜜蜂たちが受粉作業をするから、美しい花を咲かせるだろう。大きな実を沢山、実らせてくれるだろう。こうして森は、豊になるのだ。

・ 活動報告 3 : 若柳嵐山の森 (8月18日、第3日)

報告 石村 黄仁

- * 台風13号接近、雨と風が徐々に強まる中、“雨でも休まず”の伝統で集まったのは43人。
- プロ作業班12人 : 鹿園大棟梁の指揮するこの班は、過日、下草刈りの終了した“いずれ、やって御覧にいます区域 ; 猛烈藪”に11人で挑戦。全員、もうグチャグチャの汗まみれ、体力の限界に猛烈アタック。お昼までに稜線までやっつけて御覧に入れました。午後は、なだら坂の軽い整備。
- 生態系調査班 : 基地から山頂までの植物分布調査。午後は、各地で採集した植物の分類整理。植物図鑑と拡大鏡を使って採集物の整理風景は、端から見ている限り優雅・豪華、ゆとりの世界。

- 炭焼き班；先月、水を含ませ熟成させた粘土を掘り起こし（これが予想もしなかった重労働）攪拌機で捏ねて窯場に運ぶ過酷な作業。それを荒井棟梁が窯壁に丁寧に塗り込める。3回も天井を落としたのを少しも落胆の表情を見せない炭焼き班の根性も大した物だ。
- 炊事班：雨風の強まる中、炊事班も雨の中で働きに働いた。この雨の中で働いている森林仲間に美味しいものを食べさせたいと雨に打たれながら働く姿が美しく目頭が熱くなった。炊事班の女性たちが、森林仲間たちにそのメニューは……、冷やし汁と茄子の蠶（おろし）大根饅（あえ）。重彦おじいさんが堀たて茗荷（みょうが）、兼松さんが手製の蒲トマトを差し入れてくれた。旨い旨いと皆んな大喜び。その作り方を数人の仲間が教わってメモしていた。
- ロジスティック（後方支援・補給）班：雨と風の中、何をすべきか右往左往…では無い。自分の出来る事は、何たるかを知っている。各班の助っ人にキッチリはまった。
- *何んとかテレビが取材に来たが「撮影などやめて鋸引きしろよ」と富沢さんが作業を強要していた。何んとかテレビの林ディレクター（女性）はその気になって働いていたのが噴飯ものだ。



採集植物の分類をする篠田指導員と植物に詳しい林さん。

大月岩殿便り：

報告 大月／河西悦子

- 7月18日（木）：「かながわ県民活動サポートセンター」での「よこはまの水と森の会」へ【大月岩殿・森づくりの会】として山地・河西2名で参加。「よこはまの水と森の会」として大月岩殿を支援して下さる事となった。下流域からのこの様な励ましと支援は、嬉しい。勇気が沸いてくる。
- 7月28日（晴・曇）：第五回活動：大月短大生は、真夏日の今日、試験中。“継続は力”だと息子を誘って森に出かける。何んと、世田谷から石村さんが既に来ていて一人作業をしていた。「三人ではまとまった事ができないね、この森の境目を調べよう」と観察道を付けながら森の奥に入った。笹藪などをかき分け突き進むと30年生位の杉植林区域に出たが、ビックリした。苔むした巨大な自然石を組み込んだ石積みがあり何層も連なっている。何のためのものか分からないが場所が場所だけ（岩殿城址東斜面）に想像が膨らむ。歴史に詳しい人を探して調べてもらう事にしよう。この猛暑の中、お昼頃、都留市から長塚さんが自転車に来てくれた。杉林境目を辿ると大きな竹藪に出た。酷い密集の竹藪だから10～11月頃、間伐すれば来春は、竹の子が沢山、取れるだろう。午後から、山地さんも来てくれて観察道作りを進めた。それにしても、ここは何んと言う場所だ。大月の象徴的な岩殿の地に、駅から直ぐの絶好の場所に、フィールドを与えられた事に感謝。都留市からは下り坂だが、大月からの帰路は、上り坂になる。そんな道を毎回、1時間以上もかけて来てくれる長塚さんには、頭が下がる。遠のいて帰路に付く長塚さんに仲間たち皆んな、感謝の気持ちを込めて見送った。

NPO活動報告：経過報告会、その他

報告 … 石村 黄仁

- NPO法人が認証された。8月18日（第三日曜日）には、交流センターで経過報告会を開催した。

森林仲間たちにNPO法人の役員理事・監事の10名の方々を紹介した。特に地元の重鎮の方々の参加は心強い。即ち、森を貸して下さっている鈴木重彦氏は、県行政の重鎮を努めた人。尾形氏はある大企業で経営に携わっていたベテラン。永井宏一氏は長年、町議員を務めた前議会議長。津久井の畑野氏は、活動仲間にして建具組合の役員、監事をお願いしている鹿島田氏は、相模湖観光協会長。その他、森林仲間からそうそうたる5名の計10名。報告会は和気藹々(わきあいあい)笑いの集いになって時間超過。引き続き館内食堂で懇談会に入った。千円会費では、殆ど何もできないが「知足：足るを知る：森仲間」たちは、十分に満足して帰路に付いた。

- 森林の荒廃を何とかして止めたい。川崎、横浜、湘南がから来る森仲間から「川上だけで自己満足しては駄目だ、川下/都会部で水源を守る活動も必要だ。都市部に“水源の森を守る会”を作れ」と動議があった。「解った、やろう」。準備に取り掛かっている。
- 広報は必要で神奈川新聞社を訪問して訴えた。力を貸してくれる事になった。早速、写真付きで原稿を送った。8月28日付け朝刊に「自由の声」欄に掲載してくれた。継続的に続ける。
- また、“水源の森を守る会”の仲間6人で神奈川県庁の企画部(陳岡部長)を訪ねて黒川教授の地産材を生かす「黒川構法：スケルトンログ構法」を説明した。良く話を聞いてくれた。

養蜂班員：募集

篠田さんが生態系調査班を編成して「いろんな植物・昆虫・鳥・動物がいる森が豊かな森です」と言うのを聞いた西君は、考えた。「それなら、蜜蜂を飼って受粉させれば、いろんな花や木の実がなって昆虫・鳥・動物が増えるだろう。蜜蜂は、かまわねばおとなしい昆虫だから刺す事も無い。蜂蜜を取って仲間たちに美味しい蜂蜜を食べられる。沢山、取れば活動費になる」

そして、計画書を作って送って来た。その計画書による年間スケジュールと蜜源植物一覧表は、実に面白い。これもまた三年位、養蜂観察して「蜜蜂・ハッチ物語」でも出版するか。蜜蜂と仲良くなりたい仲間、炭窯広場前に集合。蜂蜜も優先的に舐(な)めさせるぜ。…担当 西 努

9月日程は、変則になる

- ・第一活動日は、9月7日(土)、第二活動日は、8日(日)の連続日となる。それならいっそ、森に泊まるという仲間もいるかもしれない。それも良いだろう。只、楽しいからと言って森に向かう謙虚な心だけは忘れないで欲しい。夜更かししたりしないよう、酒はお神酒程度にしろ。
- ・第三活動日の15日、群馬で行われる「森林と市民・全国大会」で宮林先生の手伝いで群馬に行く。全国から森林を心配する森仲間が集まる由。この日、“若柳嵐山の森”では、「栗拾い大会」。

9月23日(月・粉日)：森林作業基礎講座
森林作業の基本を習得し技術のレベルアップのために行う。森がそんな人材を必要としている。

- 1) 9月 7日(第1回)：若柳嵐山の森
9時15分駅前集合、参加費300円
*土曜日になっている…注意
- 2) 9月 8日(第2回)：小原本陣の森
9時15分駅前集合、参加費300円
*車の乗り合いで行く。
- 3) 9月15日(第3回)：若柳嵐山の森
9時15分駅前集合、参加費500円

モットー 急がず、休まず、楽しく、無理せず
ポチポチと…、そして…沢山のご意見下さい。
名称 NPO：緑のダム北相模/森林部会
事務局 154-0023
東京都 世田谷区 若林3-35-9
TEL&FAX 03-3411-1636(自営)
TEL 03-3411-0602(専務)
お電話係 石村黄仁 (自然科学研究所 専務)

HP：[http://www13.u-page.so-net.ne.jp/rk9/moritomo/so-net\(u-page\)](http://www13.u-page.so-net.ne.jp/rk9/moritomo/so-net(u-page))

ご支援自然保護団体：WWF・日興インベスターズ基金、セブン・イレブン：みどりの基金、